

「CKDガイドライン2012改訂の概要と薬物治療の動向」
東邦大学医学部 腎臓学講座 兼任 人工透析室 教授
酒井 謙 先生

参加 49名

秋嶋薬局	秋嶋
アサヒ調剤薬局	中畔、白井、桑原、内田
アサヒ薬局	天野、大高
アサヒ薬局医大前店	中畔、豊田、八巻
江島薬局	浅野、中野、江島
大森会営薬局	岡川、石原
大森日赤病院薬剤部	平岩、三村、飯竹、清水、高田、甘利、石久保、市川
きぼう薬局大森北店	藤岡
久が原鈴薬局	牛来、砂山、廣田
ココク薬局	松原
サガワ薬局	南雲
すみれ調剤薬局	山田、埴田、入江、平賀
ちどりフローラ薬局	亀井、亀井
東邦大医療センター大森病院	木村
なかがわ薬局糞谷店	平澤
にしかわ薬局	新木、福井、根津
はなぶさ薬局	秋元、尾花
ひろみ薬局	橋本
プラザ薬局大森店	木村
みのる薬局	押切
美原薬局	赤間
ゆりかご薬局	清水
吉田薬局	吉田、古畑

質疑応答

Q : 患者さんが透析導入を拒まれる割合はどれくらいありますか？

A : 症状があれば、9割の患者さんは透析を導入されますが、残り1割の患者さんが拒まれることがあります。
しかしながら、本当に息苦しくなるなど日常生活に支障が出てくれば、透析導入されていきます。

Q : 薬剤師の判断により、蛋白尿検査等のスクリーニングを勧めるべきでしょうか？

A : 健康診断で蛋白尿が陽性でも、水分摂取の不十分による脱水が原因となり、陽性になっているケースがあります。患者さんには、そのような背景を十分に説明してあげてください。
朝、昼、晩のどの時期においても、試験紙が陽性になっているようであれば、専門医に紹介して頂きたいと思います。

Q : 今後、益々進んで行く在宅医療について、薬剤師としてのあるべき姿や期待についてどのようにお考えでしょうか？

A : 在宅医療においては、受診回数や投薬回数が減少することが想定されます。そのような状況において、臓器障害等の患者さんの潜在的な変化をどのように把握していくかが課題になると思われます。
患者さんの日々の変化の観察には、患者手帳等を活用して、薬剤師さん、栄養士さん、看護師さんを含めたチーム医療が、今後益々重要になってくるものと思われます。